

白のエスプリ

2023 年 7 月 1 日(土)～8 月 27 日(日)

休館日：月曜日（祝日は開館、翌日休館。ただし 7 月 24 日、8 月 14 日は開館）

本展では、ユトリロ展にちなみ、「白」を特徴的に用いた所蔵品を紹介します。

花嫁衣装に使われるように、白は、無垢やけがれのものを象徴する色です。「白」という言葉は、何もない、何も加工されていない状態や無罪であることを指し、英語の「White」は善意や純粋を意味します。ときに、白が使われる作品からは、こうした印象を抱くこともあるかもしれません。

光を表すときにも白は使われます。最も光が当たっている部分（ハイライト）を描くのに白の絵具が用いられ、あるいは白黒写真では光に晒された明るい部分が白く印画紙に写し取られる——最も明度の高い無彩色である白は、光そのものを示す色とも言えます。

清らかな白、空白としての白、光を表す白。作品に用いられた「白」の意義やはたらき、その真髓^{エスプリ}に注目してご覧ください。

作者名	生没年	作品名	制作年	材質／技法
三富 與一	1889-1968	きく	1954 年	油彩、ボード
坂口 綱男	1953-	安吾のいる風景	1983 年（1982 年撮影）	ゼラチンシルバープリント、RC ペーパー
関屋 俊彦	1912-2007	上大川前水門	1948 年	インク・パステル、紙
齋藤 應志	1903-1981	（萬代橋と新潟の街）	1971 年頃	油彩、キャンバス
仲川 猛	1918-2017	白い家	1993 年	油彩、キャンバス
安宅 帛雄	1902-1989	初夏の女	1980 年	油彩、キャンバス
池田 満寿夫	1934-1997	顔 F	1978 年	ドライポイント、紙
藤田 嗣治	1882-1968	於那覇	1938 年	鉛筆・水彩、紙
富岡 惣一郎	1922-1994	冬妙高 A	1977 年頃	シルクスクリーン、和紙
原田 哲男	1949-	スカイマウンテン	2000 年	大理石
目黒 順三郎	1921-2016	旧県議会議事堂	制作年不詳	彫漆